

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式
 客観式19個(選択式16個,記述式3個), 論述式17題(1行×4, 2行×9, 3行×4, 計34行)
分量・難易(前年比較) 分量(減少・変化なし・増加) 難易(易化・変化なし・難化)
 論述問題の数は昨年度の16題から1題増加し,客観式の解答数は19個と変化がなかった。問題に使われた図表の数は, 図8個, 表3個と, 昨年度の図9個, 表3個と大差なく, 総ページ数も16ページと昨年度より1ページ減少したものの, 全体の分量が多く, 図表の判読も含め, 時間的にはかなり厳しかったと思われる。客観問題の判定は比較的容易で, 論述問題も書きやすいテーマが多く, 全体の難易度は昨年と大きな変化はない。

出題の特徴
 第1問の図1-1の点描図や図1-2の階級区分図, 第3問の図3-1の地形区分図, 図3-3の等高線と市町村境界図など, さまざまな地図と地理情報を扱った主題図が示され, 地理的技能が試される設問が多い。近年隔年で出題された地形図は扱われなかったが, 等高線の判読など地形図読図のスキルは試されている。これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習も必要である。

その他ピックス
 第3問設問A図3-1の濃尾平野の地形区分図, 三角州の自然災害, 地盤沈下の理由については, 基礎シリーズ「総合地理(論述編)」第2講1で取り上げた2012年名古屋大本試問題Iと類似している。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 論述	アメリカ合衆国と ヨーロッパ諸国	設問Aのアメリカ合衆国の人口分布図は判読しやすく, (1)の東西の人口分布の違いの自然的要因は気候・地形に注目すれば解答しやすいが, (2)の自然的要因はやや書きにくい。(3)の分布のパターンは, 図の判読がカギとなるが, 指定語句の「集落」は使いにくい。設問Bのメガロポリスに関する問題は, いずれもポイントが絞しやすい。設問C(1)のヨーロッパの階級区分図は階級の凡例が示されておらず, 濃淡の判読がわかりにくい部分があるが, ヨーロッパの民族分布の特徴が理解できれば判定は容易である。(2)は旧ソ連の構成国であることに注目する。	標準
第2問	選択 論述	世界の農業	設問A(1)の植物油に関する統計の判定は, いずれもあまり見慣れない統計で, やや難しい。(2)の国名は, 雨温図が手がかりとなるので判定しやすい。(3)の植物油の需要増加の要因は, 2012年度東大本試第2問設問B(2)で問われた中国の油脂類の輸入増加の背景と同じような内容である。設問B(1)の国別の主要農作物の自給率の判定は容易で, (2)のトルコと(3)のメキシコの自給率の特徴は, どう書き分けるか注意したい。	標準
第3問	記述 論述	日本の都市, 環境と 災害	設問Aの地形分類(濃尾平野)は, 凡例に氾濫原があるので, 一般的にはそれに含まれる自然堤防を解答するのにやや戸惑うが, ここでの氾濫原は後背湿地を示すと考える。(3)の地盤沈下量の変化の理由は, 高度経済成長期の低下量が大きいことに注目する。設問B(1)は平野部と山間部の自然的境界の違いに注目する。(2)は新たに人口集中地区に組み込まれた地域と, それまでの人口集中地区の人口密度の違いに注意したい。(3)は2009年度東大本試第3問設問Bで平成大合併の背景として「公共サービス」を使用して説明する出題があり, その影響を考えれば「行政上の問題」は答えやすいが, 「生活上の問題」は的が絞りにくい。	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 客観式問題での得点が可否にかかわらず, 教科書やセンター試験の過去問などで基本的知識を確実に習得しておきたい。
2. 指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60字程度の短い論述演習を繰り返し, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
3. 統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
4. 日本の変化に関する問題が頻出しており, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」など時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの年代の特徴を理解しておきたい。
5. 日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
6. 典型的な地形の地形図をもとに, 等高線の形状から地形がイメージできるようにしておきたい。